

nisseki news

日赤ニュース

+ nisseki news

no.57
2016

- 院長インタビュー
- 特集「経カテーテル大動脈弁治療(TAVI)」
- 日赤TOPICS ●スタッフ紹介 ●身近な病にご用心【インフルエンザ編】



ご自由にお持ち帰りください

日本赤十字社 伊勢赤十字病院
Japanese Red Cross Society

〒516-8512 三重県伊勢市船江一丁目471番2
TEL 0596-28-2171 FAX 0596-28-2965



●発行日／平成28年2月 発行責任者／古川 亨

●編集・発行／伊勢赤十字病院 広報委員会 伊勢市船江1丁目471番2 TEL0596-28-2171(代) <http://www.ise.jrc.or.jp>

伊勢赤十字病院 検索

新年のご挨拶

伊勢赤十字病院
院長 楠田 司

新年あけましておめでとうございます。2016年新しい年が始まりました。昨年4月院長に就任して初めての新年ですが、穏やかに迎えることができたことに感謝しております。

さて、皆さんの新年は如何でしたでしょうか？期待と希望が満ちた2016年を思い描き、胸膨らませ心弾ませている方も多かるうと思います。あるいは、年明けからの激務に備え、のんびりと体を休め英気を養われたかもしません。

一方、病院は年末年始も休むことなく、日々稼働しています。昨年12月28日から1月3日まで、ドクターヘリは6回出動、救急車241台の受け入れ、救急外来患者数523名、うち157名入院と、病院内は繁忙を極める6日間でした。この調子ですと今年1年も、目の回る忙しさになりそうです。

ところで、昨年7月より地域の医療体制を考える地域医療構想調整会議が全国の各地区で行われています。今後日本は若年人口の減少と高齢者の増加により疾病構造は変化をきたし、脳卒中、肺炎、骨折など比較的長期に入院が必要となる患者さんが増えると予想されます。にもかかわらず、ゆっくりと回復を促す機能を持つた病院は極めて少なく、本来必要とされる病床が不足していることは大きな問題です。これを地域の医療機関で話し合い、病院機能を将来の医療需要に合わせるように軌道修正する作業が全国的に今まさに進んでおり、伊勢志摩地域も同様です。当院のような急性期病院では、ある程度良くなれば次に治療を待つ患者さんのために退院あるいは転院して頂くことになりますが、この時、家に帰る準備としてのんびりとリハビリができるような病院が地域には必要なのです。ところが伊勢志摩地域の病院の現状は、この必要性を十分に満たしている

とは言えません。急性期を過ぎた患者さんの受け入れ可能病院を整備することは喫緊の課題です。急性期であろうと慢性期であろうと、安心安全な医療を地域内で提供できることが肝要です。調整会議が順調に進んでいくことを期待しています。

また、これから当院においては、県南部の急性期・救急医療を守るべく診療機能をさらに拡充し、地域連携を進め、地域完結型医療に向け大きく前進する時期とも捉えられます。そのためには、今以上に当院のスタッフが、赤十字職員としての自覚、急性期医療の担い手としての自覚、そして質の高い医療を求める探求者としての自觉を持ち、二つのチームとして最大限の能力を発揮してくれることと期待しています。そして、これこそが私の今年の目標でもあります。

職員同持てる力を結集して地域の健康を守っていきます。今後とも伊勢赤十字病院にご理解ご協力の程よろしくお願いいたします。

●楠田 司 院長ってこんな人

Q.普段はどんな仕事をしているのですか？

A.一人の外科医として診察や手術を行っています。また、予算の策定や診療報酬の改定などについて関係部署と話し合い、病院運営に携わっています。この他にも、地域医療構想調整会議などの公的な会議への出席も行っております。

Q.休日は何をしていますか？

A.映画(特に邦画)が好きなので、DVDをレンタルして見ます。推理小説も好きで、最近では京極夏彦の作品を読みました。妻とドライブに行くことが多く、鳥羽や志摩など気の向くままに足を伸ばしていますね。

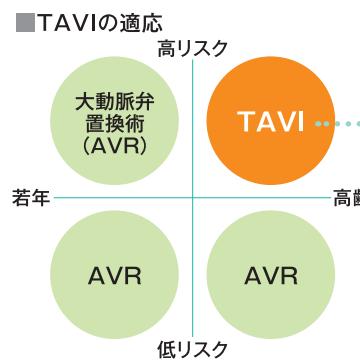
Q.健康維持のために気をつけていることは？

A.院内ではエレベーターに頼らず、階段を使って昇り降りしていますよ。家庭では妻が玄米入りのご飯や青魚を中心とした健康的な食事を用意してくれます。



県内初！大動脈弁狭窄症の最新治療実施施設に認定 新たな可能性を切り開く「TAVI」

大動脈弁狭窄症（心臓の弁が固くなり十分な量の血液が全身に送り出されなくなる心臓弁膜疾患）の最新治療「経カテーテル的大動脈弁置換術（TAVI）」を実施するには、経カテーテル的大動脈弁置換術関連学会協議会から実施施設認定を受ける必要があり、この度、当院は平成27年10月8日、県内で初めて施術の規定数以上の実績や、経験豊富な医師の配置、充実した設備などの体制を整え、安全で適正にこの最新治療を行える施設として認定を受けました。



これまで手術が couldn't be reached 高齢、高リスク患者も TAVIで治療が可能になります。
リスク要因としては、過去の開胸手術、腎・肺、認知機能の低下、脳や大動脈などの高度な動脈硬化などがあります。

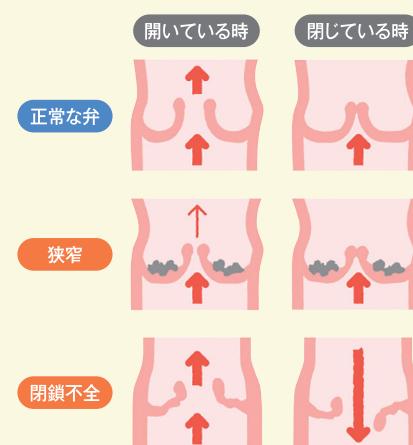
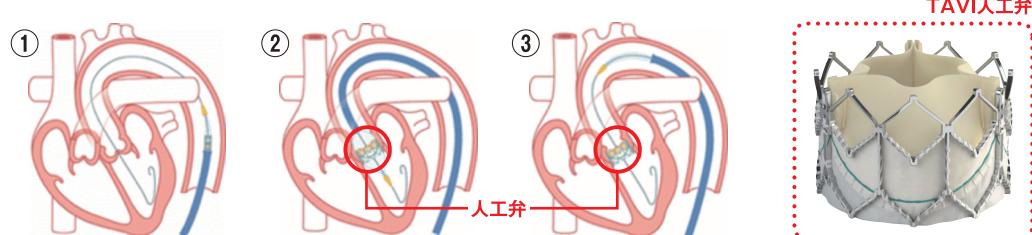
スクが高いため、外科的治療を断念するケースが少なくありません。

しかし、経大腿アプローチにて行うTAVIは胸を開いたり、心臓を止める必要がなく、足の付け根の動脈からカテーテルを心臓まで挿入し、人工弁を大動脈弁に留置し治療を行うため、患者さんの体への負担が非常に少なく、従来では手術を受けることができなかつた患者さんも治療を受けることが可能になります。また体への負担が少ないので入院期間が短いことも特徴です。また、数多くの施設での臨床経験も蓄積され、その効果も既に実証されるに至っています。

ただし、この治療は残念ながら魔法の治療というわけではありません。現在我が国において使用できる器材には制限があり、残念ながら手技に関連したリスク（手技を行うことで生命予後に関与したり、恒久的な障害が生じてしまう危険率）は、少なくありません。また、いくら低侵襲とされるTAVIに対しても、超高度な合併症（認知症・寝たきりであるような方には適応がありません）。

施術方法（経大腿アプローチの場合）

- 足の付け根の血管である「大腿動脈」から、シース（機器を出し入れする管）を心臓まで挿入します。
- 大動脈弁をバルーンで拡張し、少し弁を広げます。この状態で、人工弁をバルーンと共に大動脈弁まで運び、バルーンを拡張する事で、大動脈弁に人工弁を圧着させ、留置せます。
- 留置後はカテーテルを抜き取ります。人工弁は、大動脈弁の部分で固定されています。



第3回病院まつり「ゆずりは祭」

平成27年12月5日(土)

急性期病院である当院について、もっと地域の方に親しんでもらい、医療に興味をもつてもらいたい、共に地域医療を守っていきたいという思いを伝え深めるため、

平成25年に始まり、今回で3回目の開催となりました。

今年のテーマは「地域愛—Itsumo Suteki-na Eiga o (いつもすてきな笑顔)」。

毎年来場者は増加し、今年は約3,500人の地域の方々を迎えるました。



▲「クイズ、わかるかな?」

地域(地域住民)とのコラボレーションをテーマに

「赤十字」の使命や役割の理解促進のために

病院まつりは、「地域の方々と創ること」を大切にしており、今年も伊勢混声合唱団、マジックショー、伊勢市消防団、観光戦隊イセシマンなど地元の方々ご協力いただいたステージイベントを行いました。

今年は、特に伊勢市の防災市民協働プロジェクトに賛同し、市民参加の「どすこいダンス」の1コマに当院も参加し、院内でも、伊勢市消防団員が制作した防災のテーマソング「どすこい・どすこい・だいじょうぶ」・防災ダンス「どすこいダンス」を全職員で行い、本プロジェクトの認知度を高め、個々の防災に関する意識を高める取り組みを行いました。

赤十字の主な財源は社資です。社資にご協力いただくためにも、赤十字の事業を理解していただくことが重要です。そこで、病院まつりでは、災害医療の理解を深める「災害医療ブース」コーナーをはじめ、日本赤十字社三重県支部や三重県赤十字血液センター、赤十字奉仕団の方々にも出展していただきました。バザーや会場内の募金は、「NHK海外たすけあい」に寄附します。



▲「人の命を助けるって すごい…」

「医療」を身近に、そして親しみやすい病院に

医療(病気の予防・管理)に関する情報発信はもちろんのこと、ふだんは見ることのできない体験を通して、医療についての理解を深めていただきたいと考えています。人気のドクターヘリの見学を始め、実際の医療機器を使用した心肺蘇生・AED体験、ハンドクリーミングづくり、看護師のユニフォームを着ての記念撮影、赤十字奉仕団による無線や展示の体験など、赤十字病院でしか体験できない様々なコーナーを企画しました。

この「ゆずりは祭」を通して、今後も地域のみなさまに親しまれる病院を目指し、地域医療を守り育てる「石となるべく、職員一同が決意を新たにしました。



▲「病院でどんな検査しているの?」

■大規模災害訓練 平成27年12月19日(土)



▲トriageを受けて搬送を待つ傷病者

午前8時20分、南海トラフの大地震が発生し、地震によるバス事故が同時に発生したため、多数の傷病者が出ているという想定の中、災害対策本部を設置、院内の被災状況を確認するところに、傷病者受け入れのための救護エリアを設営、傷病者のトリアージを行い、治療・搬送を行うという一連の大規模災害発生時の流れを伊勢消防、伊勢保健所等と合同で実践しました。

約350名の職員が参加し、被災した後の正確な情報把握の方法を確認し、スマートな患者受け入れについて検討しました。課題については今後検討



▲災害対策本部では、集まった情報を整理し、迅速な判断が求められます。

し、災害拠点病院としての役割を果たすために、よりよい災害時の受け入れ体制を整備していきたいと思います。

午前8時20分、南海トラフの大地震が発生し、地震によるバス事故が同時に発生したため、多数の傷病者が出ているという想定の中、災害対策本部を設置、院内の被災状況を確認することに、傷病者受け入れのための救護工

りアを設営、傷病者のトリアージを行ない、治療・搬送を行うという一連の大規模災害発生時の流れを伊勢消防、伊勢保健所等と合同で実践しました。

約350名の職員が参加し、被災した後の正確な情報把握の方法を確認し、スマートな患者受け入れについて検討しました。課題については今後検討



一人でも多くの患者さんに元気になってもらいたい。

医療技術部リハビリテーション科 中立 大樹



理学療法士の中立さんがこの仕事を志したのはご自身の経験から。学生時代、バスケットボール部に所属していた中立さんは、自分が怪我を負った経験から理学療法士という職業を知り、この仕事をつくることを目指したそうです。学校を卒業後、急性期病院で働くことを望み山田赤十字病院へ就職、以来18年間、この病院でずっと患者さんのリハビリテーションに関わっています。

現在、中立さんが携わっているのが「内科系のリハビリ」です。これは、糖尿病患者さんや心疾患患者さんなどへの運動療法が主なもので、患者さんの家庭での暮らしぶりなどを聞き、その人なりの目標に合わせてプログラムをたて、治療す

るもので。一般的には馴染みの浅い内科系リハビリですが、伊勢赤十字病院では2年前に心臓リハビリテーション部門を設立し、そこで治療に当たっています。今後は、「内科系リハビリのしっかりととした仕組みを作り、若手スタッフを育成し、一人でも多くの患者さんが元気になれる組織作りを進めていきたい」と意気込みを語ってくれました。

部署紹介



●医療技術部リハビリテーション科

リハビリテーション科は、整形外科疾患や脳血管疾患、心疾患、呼吸器疾患、神経筋疾患等により障害を持った患者様が、再び社会に適応できる状態になるようお手伝いをする科です。チーム医療を立ち上げ、がんや心疾患、呼吸などのリハビリテーション、糖尿病運動療法指導や嚥下リハビリテーション等の治療を行っています。現在、理学療法士11名、作業療法士4名、言語療法士3名が所属しており、リハビリテーション専門病院への転院や、介護保険下でのリハビリテーションへの移行が円滑に行えるよう早期からリハビリテーションに取り組んでいます。

患者さんから信頼してもらえる看護師になりたい。

3Y病棟(脳神経外科・神経内科・脳血管内治療科) 西田 沙也佳

昨年4月にデビューしたばかりのフレッシュな新人看護師、西田さん。看護師を目指したのは高校時代、祖父が病に倒れた際、治療に携わる人々を見て興味を持ったことがきっかけでした。看護大学で学んだ後、急性期病院でさまざまな症例を経験したいと伊勢赤十字病院の門を叩きました。

西田さんは看護大学在学中に脳神経外科へ実習に行つたことで、患者さんとの関わり合いの大切さや、脳神経系の働きに興味を持ち、この病棟への勤務を希望しました。現在、勤務している病棟は三重県内で最も脳卒中患者の受け入れが多い施設であり、毎日多くの患者さんの治療に当たっています。言語でのコミュニケーション

ケーションが困難であったり、身体に麻痺の残る患者さんが多いことから、「医療に関する知識や技術はまだ勉強することが多いけれど、爪を切る、髪の毛を洗うなど、毎日患者さんを観察することで気がつき、今の自分でもできることを見つけて自主的にケアを実践する」とを心がけているそうです。そんな西田さんとのふれ合いに感銘を受けた患者さんからの感謝の声も少なくありません。

今後は、患者さんから信頼してもらえ、スタッフからも安心して仕事を任せてもらえる看護師になりたいと、医師や先輩看護師の指導の下、充実した毎日を送っています。

センター
3330



部署紹介



●3Y病棟(脳神経外科・神経内科・脳血管内治療科)

3Y病棟は脳神経外科・神経内科の病棟です。当院は三重県下で一番脳卒中の患者搬送が多い施設であり、県中南部の脳血管治療において最大規模をシェアします。病床数は69床あり、併設のSCU6床を加えると75床を擁しています。患者さんひとりひとりに質の高い医療を提供するため、医師14名、看護師およそ60名、薬剤師3名、理学療法士等が力を合わせ治療に当たっています。

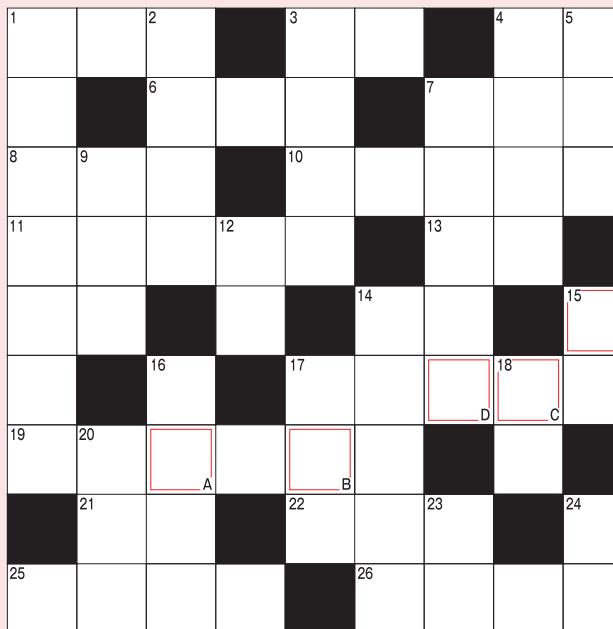
「スピードが命」と言われる急性期治療を迅速に確実に行なうことはもちろん、健康な人への脳卒中予防の啓蒙や、脳卒中治療を行う医師の研修・教育機関としての役割も担っています。

クロスワードパズル



ヨコのカギ

- 1 日本家屋で火鉢が置かれている場所
 - 3 暖炉などで火を起こす際に用いる木「〇〇割り」
 - 4 専門技術をもつ技術者「臨床検査〇〇」
 - 6 SMAPの名曲「〇〇〇ノムコウ」
 - 7 期限がくること「保険が〇〇〇になる」
 - 8 必要でないこと「〇〇〇な出費を減らす」
 - 10 独唱会、独奏会のこと「ピアノ〇〇〇〇〇」
 - 11 東ヨーロッパに位置する国
 - 13 計画・企画したことが取りやめになること「お〇〇入り」
 - 14 黒の反対色
 - 17 多くの中から特に選び出されるということわざ
「〇〇〇〇〇が立つ」
 - 19 常に自分の心に留めておいて、戒めや励ましとする言葉
 - 21 おまんじゅうなどの「和〇〇」やケーキなどの「洋〇〇」
 - 22 金に〇〇〇はつけない
 - 25 初めての出産
 - 26 お風呂の長湯で、ぼうっとなること



解答

〈答えヒント：春の到来を告げる花〉

タクミ

身近な病にご用心

● 予防方法

- ①予防接種(ワクチン)を受ける

予防接種はインフルエンザ発症のリスクを減らし、もし発症しても重い症状になるのを防ぎます。また、流行ウイルスの型が毎年変わるため、接種を毎年受けることがあります。

②マスクの着用

鼻と口の両方を確實に覆い、ウイルスの侵入を防ぎます。鼻の部分の隙間や、あごが出でたりすると効果がなく、使用後マスクには多くのウイルスが付着していますので、外した後は直接ゴミ箱へ捨てましょう。

③手洗い・うがい

石鹼による手洗いは、手指などについたインフルエンザウイルスを除去するために有効です。手洗い・うがいでウイルスの体内侵入を防ぐことが大切です。

④湿度の保持
空気が乾燥する
が低下します。
は加湿器などを
60%）を保つこと

- (4) **湿度の保持**

空気が乾燥すると、気道粘膜の防御機能が低下します。特に、乾燥しやすい室内では加湿器などを使って適切な湿度（50%～60%）を保つことも効果的です。

⑤ **十分な睡眠とバランスのとれた食事**

睡眠不足からくる疲れとストレスは、風邪に対する免疫の働きを弱めます。体の抵抗力を高めるために、十分な休養・睡眠とバランスのとれた栄養摂取が大切です。

⑥ **人混みなどへの外出を控える**

不用意に人混みや繁華街へ出かけると、感染者からの飛沫感染や接触感染のリスクが高まるので、出来るだけ外出を控えるように心がけてください。

ま
知

正しい手洗い方法



【インフルエンザ編】

毎年1月から2月頃にピークを迎えるインフルエンザは、インフルエンザウイルスが体内に入り込むことによって起こります。インフルエンザウイルスには大きく分けてA型、B型、C型と呼ばれる3種類があり、特にA型とB型の感染力はとても強く、大きな流行の原因となります。インフルエンザウイルスの感染経路は、